JRPみえばん
百万石
9号
1979-5-9
伊勢市 古市町235
百万石 編集部
東 洋介

（まえがき）この前の理事会で 百万石が正式に 支部の機関誌として認められました。それでやはり全員にお送りすることになりました。それから月に1度の発行にしないと みるみる赤字になるので 1度に何号かまとめてお送り致します。 どうぞ皆さんのお力でこの百万石を順調に育てて下さい。

東

北村さんの手紙を読んで

やぎゅう

真剣さと真剣さがどこかですれちがったとき、そのつきあたった一角からカチンと小さな火花が散る。

僕のような無責任ものならぐにゃりとして火花など散る筈がない。それだけにこの火花を大切にしたい気持でいっぱいである。また、このような火花がJRPが未来に向って燃えていくためのものであることを願っている。

さて「北村さんの手紙」を読んで僕なりにいくつかの問題を感じています。 第一にJRP会員と視点展のかかわりの問題です。言うまでもなく視点展はJRPの事業と創作活動の大きなかなめであり、会員が積極的にこれに参加し、その質的および量的にも成功させていかなければならぬものです。

そのことは、もし現在 視点展のないJRPを想像したとき、なんとなく"公民権"の一部を失った存在のような感じを受けるのではないでしょうか。 東京上野で幕をあけ、巡回展が地方で開かれ、視点写真集がそれが小数であっても各地の愛好家や写真に縁のない人々に見てもらうことができる……。

だから本部も三重支部の厂々も訴える「視点へむけてがんばろう、可能なかぎり出品しよう」と。 またその気持は、組織の責任者やJRPの発展や会員のことを心から思う人々の当然の言葉であると思います。

ところが問題はそう簡単ではありません。何故ならこの視点展そのものが、会員やその他の個人々々の主体性（創作等々）に支えられて成立するものであるからです。だから視点展へ出品するかどうかは、権利や自由や義務の問題としてとらえてはならないと思うのです。 たとえ会員であってもその人の主体的な条件を考えなければならないし、その条件も千差万別だと思います。 そしてその千差万別を視点展の意義の認識と自覚で統一していくことが前提になります。

去年 三重支部がはじめて巡回展を開催したエネルギーはここから出発していたと思います。 三重支部会員の大半が、この事業に積極的に参加し、その成功の中でますます視点展の意義の自覚を深めたと思います。（それ以前に三重支部展2回の経験があった。）

第2の問題ですが、去年の巡回展終了後の皆の一致した感想の中に、視点展オンリーでよいのかどうか 支部展ももつべきでないかということがありました。 つまりJRPの事業や創作活動が視点展オンリーになってはならないということです。

視点展は重大である。しかしそれのみが会員の創作活動や参加のバロメーターになってしまうと、会の発展が止まり混濁してしまうのではないでしょうか。

また会員が多くなればなるほど、いろいろな工夫が要求されてきます。またそれを計画実行していく当事者の責任や苦労も倍加してきます。（僕のような無責任ものには到底やり通せないと頭のさがる思いです。）

しかしそう悲痛になる必要がないのであって、それは皆で支えあって克服できると思います。げんに三重支部はその方向で着実に発展していると思います。

第3の問題は――そもそも日本リアリズム写真集団とは何ものかということです。それは規約を読めばわかることで今さら会員の僕が言いたてる必要もありません。僕の頭の中につくねて押しこめられているものは、創依平和、真実、民主々義という単語です。 一定の正しい方向をめざすものであり、我々に創作欲だけでなく、もうひとつの生甲斐を与えてくれていることは事実です。 それだけに一定の連体的規律性も必要なわけです。

ながながくどくどと申し述べましたが、今回の百万石の「北村さんの手紙」を読ませてもらって、僕なりに考えさせられた問題の一端を書いたつもりですが、それにしても東さんの誠意や北村さんの良心には頭が下がります。あの小さな飛火花が百万石を通じて僕をこんなに考えこませたとは――。

――清水さんの談――

美術館での会場つくり、これは大変なんです。

展示効果というのが大へんらしい。 たくさんのお客さんに見て貰うのやから 視点展そのもの全体を美しく気持よく見せんならん。

英先生が視点委員の皆さんといっしょになって、何百枚という入選作品を見ながら、3日も4日も5日もと考えて考えて、そして美術館の壁面の模型も作って、入選作品の写しも一枚一枚作って、ならべては直し 直してはならべ ひるもなく夜もなく、そしてへとへとに疲れてやっと出来上がりや。

だいたい我々の組写真でも一枚抜いたら組みかえが大へんやないか。 だから視点展の組み直しなんて、えらいことやなあ。

えらいことになったなア

でもこんなこと 北村さんの知らんことや 仕方ない。仕方ないなあ。

でんわも通じなかったし、仕方ない――。

北村さんがなんとも羨しい

浦 栄子

百万石8号を読んで先ず思ったことは

できることなら 北村さんに成り代りたい!!

きっとそう思った人が 私のほかにもたくさんいるかも、いやひとりかふたりは……と考えたりしました。

JRPに入れてもらって2年め、例会出席がなにより楽しみの一会員ですが、写真を持っての出席は2回だけ、いつも手ぶらでお客さん的会員を自認しています。

バカチョンカメラが1台ほしいと思っていただけの私が、馬チャンのすすめでいつの間にやらJRPの会員に。

写真のイロハもJRPのなにかも知らずに入ったので、まだまだ写真のおもしろさがわかっていないと思います。 作る楽しさよりも見る楽しみを先に知ってしまったらしいのです。

が、本心はやはり一度は入選してみたい、いやもっと大きく大賞をとってみたい――と思っている超楽天家。

さて例会出席をなにより楽しみな私としては、かなり野次馬的好奇心から是非北村さんに例会出席を願って、北村さんの予想通りにシュン太郎例会になるか、「民主的」例会になるか、その結果や如何に と楽しみです。

また写真を持たない例会出席をなんとなく気にしておりましたが、異端者や不良分子が必要となればお客会員だって許されるのではないかと勝手なことを思ったりしてみましたが、やはり自分の所属する日本リアリズム写真集団のほんとの民主的発展を願う一人として、会員たるものは如何にあるべきかを知りたいと思います。

そして「視点展とは何か」をテーマにした話し合いのある例会をも望んでいます。 北村さんの原稿を読んで私も早く入選するような写真を作りたいと思いました。